

ブラジル政治情勢（5月の出来事）

【内政】

（1）ボルソナーロ政権支持デモの発生

5月1日、全伯各都市において、ボルソナーロ大統領支持者がデモを行い、同大統領への支持、紙面投票の実施及びコロナ禍における商業施設の開放を主張し、また、連邦最高裁判所（STF）及び反政府の立場を取る自治体首長に対して反対の立場を訴えた。

（2）新型コロナウイルス感染症対策に関する議会調査委員会

5月4日、新型コロナウイルス感染症対策に関する議会調査委員会（CPI）の証人喚問が開始し、マンデッタ元保健相（4日）、タイシ元保健相（5日）、ケイローガ保健相（6日）、トーレス衛生監督庁（ANVISA）長官（11日）、ヴァンガルテン元大統領府広報局長（12日）、ムリーリョ・ファイザー社前伯支社長（13日）、アラウージョ前外相（18日）、パズエーロ前保健相（19～20日）、ピニエイロ保健省教育訓練局長（25日）及びコーヴァス・ブタンタン研究所所長（27日）が供述を行った。

（3）ボルソナーロ政権の支持率

（ア）5月11日、IPESPE社（XP Investimentos社委託）による世論調査の結果が発表されたところ、ボルソナーロ政権の支持率は29%（前回調査：27%）に、不支持率は49%（前回調査：48%）にそれぞれ微増した。

（イ）5月13日、ダッタフォーリャ社による世論調査の結果が発表されたところ、ボルソナーロ政権の支持率は24%（前回調査30%）に下落し、政権発足後の最低水準を記録した。不支持率は45%（前回調査：44%）に微増。

（4）サレス環境大臣等に対する搜索及び押収令状の執行

5月19日、連邦警察は、欧米諸国への木材の違法輸出に関する捜査「アクアンドゥーバ作戦」の対象として、サレス環境大臣や伯環境・再生可能天然資源研究所（IBAMA）所長等に対する搜索及び押収令状35件を執行した。

（5）反政府デモの発生

5月29日、伯全国200以上の都市に加え国外14都市において反政府デモが実施された。デモ隊はボルソナーロ大統領の退陣やワクチン接種の迅速化、月額600レアルの緊急給付金の復活等を主張した。

【外交】

（１）日伯税関相互支援協定に関する法律の成立及び発効

5月6日、上院本会合において、日伯税関相互支援協定に関する法案が審議及び承認され、法律として成立した。同法律は、同月13日付官報の発行をもって発効済み。

（２）伯西政策対話の開催

5月7日、フランサ外相は、訪伯中のゴンサレス西外務・EU・協力大臣と伯西政策対話を共催し、新型コロナ禍対策における協力や経済成長の立て直し等の課題につき協議した。また、伯西両国は、この機会に際し、二国間常設委員会に関する覚書及びスポーツ協力に関する覚書を締結した。

（３）伯のチリ海底ケーブルへの参加

5月13日、伯外務省及び伯通信省は、伯がチリの海底ケーブルプロジェクト「フンボルト」に参加する旨の共同プレスリリースを発表した。

（４）新型コロナウイルス感染拡大に伴うインドからの入国制限

5月14日、伯政府は、諸外国からの入国を制限する措置につき、インドを出発又は経由した航空便及び渡航者（国籍不問）に対する制限を追加する旨の政令第653号を公布した。

（５）フランサ外務大臣のグローバル・ヘルス・サミットへの出席

5月21日、フランサ外相は、グローバル・ヘルス・サミットにボルソナーロ大統領の代理としてオンラインで出席し、新型コロナウイルスの感染拡大を克服するため、また、将来のパンデミックに備えて更に強靱な国際システムを構築するためには、更なる国際協力関係及び国内医療制度の強化が必要である旨述べた。

（６）ボルソナーロ大統領のラッソ・エクアドル新大統領就任式への出席

5月23～24日、ボルソナーロ大統領及びフランサ外相一行はキトを訪問し、ラッソ・エクアドル新大統領の就任式に出席した。フランサ外相は、この機会に際し、グアテマラ、ウルグアイ及びアルゼンチンの外相と会談を行った。

（７）フランサ外務大臣の「アフリカの日」祝賀会合への出席

5月25日、フランサ外相は、アフリカの日を祝うためのオンライン会合に出席した。同外相は、保健分野での協力、貿易・投資状況、経済協力、安全保

障分野での取り組み、ポルトガル語諸国共同体 (CPLP) 等について述べ、また、伯とアフリカの歴史的繋がりを強調し、アフリカ連合 (AU) との定期的な政策協議のメカニズムを構築することを提案した。

トピックス

サンタクルス日本病院 82周年式典への出席 (在サンパウロ総)

5月13日、桑名在サンパウロ総領事は、サンタクルス日本病院 (サンパウロ市所在) の82周年式典に出席した。式典中に、①同病院の名前を「サンタクルス病院」から「サンタクルス日本病院」への変更の発表、②在サンパウロ総領事館の草の根無償による人工呼吸器の供与式、③JICA支援による「サンタクルスがんセンター」設立の発表が行われた。

- ① 病院名の変更にあたっては、長年に亘り理事長としてサンタクルス病院を支えてきた石川レナート同病院評議会議長から、「名前の変更により我々はその起源である日本国を称賛し、日本のおもてなしの精神と尊厳のあるケアにより、引き続き患者の皆様にサービスを提供し続けていく。」との発言があった。
- ② 草の根無償の供与式にあたっては、同病院の担当医師から、「本年3月から4月にかけての第3波に対し、供与された人工呼吸器が多くの命を救うことができた。」との説明があった。
- ③ 「サンタクルスがんセンター」設立の発表に関しては、3月に新たに理事長に就任した佐藤マリオ同病院理事長から「我々は82年の歴史に誇りを持っている。がんセンター改修工事を完成させ、より多くの命を救える存在になりたい。また病院の拡張も今後の課題として取り組みたい。」との発言があった。

